

ちの熱心な反省のことがまだまだ続く様子
子をみながらホットすると同時に何か胸の

つまるようなものを感じていました。

(筆者は松江幼稚園園長)

保育園の生活と夏休み

篠田加津子

保育園の生活と夏休みについて書くようにとの御注文でしたが、私の園の乳幼児の生活を通して保育所の在り方、乳幼児保育に対する私の考え方、保育園の生活と夏休みなどの題にもふれてみたいと思います。働くおおかあさんたちが、まず第一番に困るのは子どもをどこへ預けたらいいかということ、安心して預けられる良い保育所を希望する声は日一日と高まっているようです。

朝六時半に、ニコヨンのおかあさんが、生後四十九日目の赤ちゃんをおんぶしてきます。すぐその後から生後六ヶ月の赤ちゃんが登園です。二人共御主人が結核で入院中なので赤ちゃんを預けてせつせと働きの出掛けます。すぐ其の後からは、御主人と

夫婦別れをして赤ちゃんと五歳の子と二人をかかえたおかあさん、おかあさんが急に逃げ出してしまつて六ヶ月の乳児をかかえたおとうさん、とこんなふうに関親母親どちらかが病院とか貧困とかの理由で、乳児を預け、日雇いに出なければならぬ人が朝一番先にやってきます。

大体九時頃までには、その他の乳児、共稼ぎのため乳児室を利用する、たとえば、二人とも学校の先生の場合とか、二人とも会社勤めの場合とか、商人でいそがしくて乳児を見られない、子守を頼む余裕のない人とか、双生児などの場合、働きながら二人を見られないなど皆それぞれ保育に欠けるため乳児室を利用する方たちが多く四十分幾人かの乳児が集ってきます。

主任の保母さんはニコヤカに明るく赤ちゃんの今日の健康の状態をきき取り、持物を預ります。

乳児期は、人の一生を左右する至難な離乳期がありますので、おかあさんの代りに大切な栄養の問題と取り組むのです。そして、一人一人がそれぞれ精神と肉体とのバランスがとれて発達しているか、身長はどうか、体重胸囲は標準に達しているか。一ヶ月一度ずつ健康診断をし体重測定もしています。また言語訓練、歩行指導、食物をよくかむよう指導もします。一日も早くおむつが取れるようにはねてやつたり教えるように訓練する。用便の後は日光にあてシャツカロールをたたいておくなど細かい心づかいが必要です。

生後一年くらいはむしろそうした苦労はあっても静かにしていきけるので、取扱いやすいのですが、二歳くらいの子どものちはそれはそれは大へんなものです。この時期の子どもは自己中心적입니다ので、共同して遊ぶ楽しさを味わうことができないだけに一人一人皆思い思いに遊んでいます。一人で遊んでいる時はいいのですが、すぐに同じ物でも人の持っているのが欲しくなつて、取ってしまったら、やたらに物を投げ

夏 保育

たり、今笑っていたと思うと泣いています。お食事の時間がまた大変です。一人で食べられない子、食べられてもめっちゃめっちゃにこぼしてしまう子などがあります。食事が終って午睡に入りますが、保母さんは、子どもたちが眠った後もエプロンの紐の取れたのを付けるやら、おむつの洗濯やらなかなか休む間とてありません。手足顔などの清潔、爪切り、おできの治療、ふいても拭いても出る鼻汁に根負けすることもあります。

朝の六時半から夕方の六時半すぎまで、あずかる子もありますので、しかも乳児は日曜も祭日も一日もお休みがないので、保母さんの苦労は大変です。こうして、乳児室でやさしい保母さんにつくしみ育てられ満三歳に達しますと幼児として幼児組の方へ送られるのですが、なかなかお別れがしにくくて四月の切り換えまで、乳児室に生活する場合もあり、お母さんより先生を好きになって迎えにきても帰りがたらない子もあり、生活に疲れて可愛いわが子への愛情が足りないのではないかと思われま

りのお手伝いと、交通事故がないようにとねがう気持から送り迎えをしています。朝七時には園を出発一番遠い子から順次引率して園に到着します。日雇い共稼ぎなどのため、家を留守にする両親たちを持つ子どもたちは、朝早くから園に来て遊んでいきます。やはり九時頃には、全部揃って、その日その日のカリキュラムによって幼児の夢が展開されるのです。健康としつけには、とくに重点をおいています。性格の形成時代である幼児期であり脳髓の発育などにもらみ合せ、また栄養などの点でおかあさん方との話し合いもし、園で発熱した場合など、家庭へ行ってお世話をし、いそがしいおかあさんのお手伝いや指導にも当り、ケースワーカーの役目もはたしているわけ

です。でも保育園ではかり苦勞しても家庭でこれをぶちこわしてしまつては何にもなりませんので、常におかあさん方とお話し合

いもする機会を持つよう努力しています。

幼児が、心身共に健やかに伸びるためには良い環境が支えられ、良い保母に恵まれないければなりません。環境は人を造るとも言いますし、また人が人を造るのだとも思

います。白紙を染めなす乳児期をあずかる保母の任務は重大であります。一人一人の個性をよく観察して、良い芽を伸ばし悪い芽をそつとつまむ、集団生活の中で個別指導のできる保母でなければならぬと思

います。幼児生活にはまだまだ述べたいことが沢山ありますが紙数に限りがありますのでここで夏休みの問題に入りたいと思

います。しかし、保育所には夏休みらしいお休みはないのです。これは働くおかあさん、病氣のお父さん、一年中いそがしくて幼児をみていられないいわゆる保育に欠ける乳幼児をあずかる保育所が保育を休んでしまつたら働くおかあさんたちも仕事を休まなければなりませんし、食べて行けなくなる人もできます。原則としては保育園には夏休みはないのであります。私の園では暑い夏を涼しく過ごすために何か先生方も幼児

も楽しい希望を持つようにしたらとのこと
で、七夕祭りのお遊戯会をすることに決
めて、朝涼しい間に登園、劇遊びやら、歌、遊
戯に暑さを忘れ昼食後午睡、起きたらプー
ルで水遊びしお八つを終わって帰る頃には、
暑い夏の大陽も西に傾きかけ幼児たちも眠
った後のスガスガしい気分であつた朝が来た
ような元気で家路につきます。十二日に七
夕祭りをして、十三日のお盆から五日間お
盆休みをいたします。その場合でも、要保
護児童の場合とか、休みにされては困る家
庭の子はあつかります。保育所で一ヶ月も
休むならば、保育所として社会施設とし
ての役割を果していないことになりま
す。保育園の幼稚園化などということばを
よく聞きますが、保育所の経営に当る方
々の考えなければならぬことだと思
います。園児たちも学校などがお休
みになつても毎日楽しく登園して
いますし、おかあさん方からも保育
園はお休みがないのでほんとうに助
かると大変喜ばれています。

余談になりますが、幼い時代に夢をつ
かちておきたいと思ひ、幼児の憧れ
のある象のすべり台を工夫して作り
ました。私は幼児達の喜んでくれる姿
を見て、ただ嬉しくてそれこそ象の
ように目を細く

して喜んでいました。ある朝、門の前
にお早うと来たA君が、「あ！象がいた、
象がいた、キリンもお猿もいるとい
いな」といいました。私は、ハッと
しました。幼児の夢は無限です。象
のすべり台に満足した私は何か恥
しくなりました。

ある小雨まじりの日、私はからだ
の具合が悪く起きられずいました。ふ
と前の道を可愛い声でスキップで
もしながら口ずさんでいたのでは
しょう。

お庭の象のすべり台、

雨こんこんぬれて可わいそうね

節をつけて歌っている声でした。私
は反射的にとび起き、そつと見てい
ますと、象のすべり台のところで背
のびをしながら自分の傘をさしか
けようとしています。けれども届き
ません。思案しているところへ、
何も知らない先生が迎えに来て連
れて行つてしまいました。

象のすべり台が根強く幼な児の胸
になつかしい存在として親しまれて
いる嬉しさで私はこんな風に後をつ
ぎ足して見ました。

僕のお傘ちゃ小さいな、

ああそうお日様 早くはやく。

と、お日様お日様早くお顔を出して
象さんのからだをかかわかしてち
ょううだい。そした

らあの子の心配はどこかへ飛んで
行くでしょう。作曲を自分でして
歌って見ました。幼児たちも大喜
びでしたので劇を作つて見ました。
みんな喜んで、それを劇遊びにし
て、七夕祭りにおかあさん方にお
見せしましたらとっても喜ばれま
した。

象のすべり台は今年で七つになり
ました。いつも細いお目で大きな
からだで幼い子どもたちを、やさ
しく見守っています。
(筆者は高師保育園園長)